

平成 31 年度

修士課程 臨床鍼灸学専攻

授 業 概 要

明治国際医療大学大学院

平成 31 年度 大学院 修士課程 臨床鍼灸学専攻 教育課程

| 科目区分 | 細目 | 授業科目 | 配当年次 | 単位数 | 分野 | | 時間数 | 備考 |
|------|---------|------------|------|-----|-------|---------|-----|---------|
| | | | | | 臨床鍼灸学 | 健康予防鍼灸学 | | |
| | | | | | 必修 | 必修 | | |
| 基盤科目 | スタートアップ | 研究法入門 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | |
| | | 臨床鍼灸学入門 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | |
| | ベーシック | 臨床鍼灸医学 | 1 | 2 | 2 | 2 | 60 | |
| | | 附属鍼灸センター実習 | 1 | 4 | 4 | 4 | 60 | |
| | | 附属病院実習 | 1 | 4 | 4 | 4 | 60 | |
| | | 臨床鍼灸研究法 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | |
| | アドバンス | 統合医療学 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | |
| | | 学際鍼灸医学 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | |
| | | 教育学概論 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | |
| | | 予防医学 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | |
| | | 伝統鍼灸学 | 1 | 2 | 2 | 2 | 15 | |
| 専門科目 | 実験計画法 | 臨床鍼灸学研究法 | 1 | 2 | 2 | | 30 | 2単位以上必修 |
| | | 健康予防鍼灸学研究法 | 1 | 2 | | 2 | 30 | |
| | 実験調査法 | 臨床鍼灸学実習 | 1・2 | 6 | 6 | | 120 | 6単位以上必修 |
| | | 健康予防鍼灸学実習 | 1・2 | 6 | | 6 | 120 | |
| | 特別研究 | 特別研究Ⅰ | 1・2 | 1 | 1 | 1 | 30 | |
| | | 特別研究Ⅱ | 1・2 | 5 | 5 | 5 | 150 | |
| | | 特別研究Ⅲ | 1・2 | 2 | 2 | 2 | 60 | |

修了に必要な単位数は、基盤科目の全科目 19 単位と専門科目の特別研究 8 単位と研究法 2 単位以上、実習 6 単位以上を選択必修し、合計 35 単位以上とする。

目 次

基盤科目

| | |
|---------------|----|
| 1. 研究法入門 | 1 |
| 2. 臨床鍼灸学入門 | 3 |
| 3. 臨床鍼灸医学 | 5 |
| 4. 附属鍼灸センター実習 | 9 |
| 5. 附属病院実習 | 10 |
| 6. 臨床鍼灸研究法 | 11 |
| 7. 統合医療学 | 14 |
| 8. 学際鍼灸医学 | 16 |
| 9. 教育学概論 | 19 |
| 10. 予防医学 | 21 |
| 11. 伝統鍼灸学 | 23 |

専門科目

| | |
|---------------|----|
| 1. 臨床鍼灸学研究法 | 26 |
| 2. 健康予防鍼灸学研究法 | 27 |
| 3. 臨床鍼灸学実習 | 28 |
| 4. 健康予防医学実習 | 29 |
| 5. 特別研究Ⅰ | 30 |
| 6. 特別研究Ⅱ | 31 |
| 7. 特別研究Ⅲ | 32 |

| | | | | | | |
|------------------------|---|------|------|------------------|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 研究法入門 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 講義 | 授業年次 | 1 年前期 |
| 授 業 担 当 者 (◎は単位認定者) | ◎ 角谷英治、糸井マナミ、山崎翼 | | | | | |
| テ ー マ | 研究を開始する上で必須となる知識の学習 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 研究活動を行う上で、最低限必要となる知識について学習する。具体的には、①論文検索、②研究の専門用語、③研究デザイン、④臨床研究の倫理、⑤倫理的配慮、⑥動物実験の倫理、⑦調査研究、⑧症例報告について学修し、研究活動を行う上で必要となる基礎知識について理解する。 ＜動物実験の倫理＞動物実験を行うために必要な関連法規・基本指針および本学における動物実験規程を学ぶ。 | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究活動に必要な倫理的内容について理解すること 2. 研究に関する用語の理解や文献検索の方法を理解すること 3. 研究デザインや統計解析について基礎的な内容を理解すること 4. ＜動物実験の倫理＞関連法規・基本指針等の目的を理解したうえで動物実験の意義、動物福祉について考え、動物実験を行う上で必要な倫理観を養う。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | [授業概要] 論文検索と文献複写 (山崎 1) [到達目標] 論文検索ならびに文献複写の方法について理解する。 | | | | | |
| 2 | [授業概要] 基本的な研究・統計学の用語 (山崎 2) [到達目標] 研究に関する基本的な用語や統計学の用語について理解する。 | | | | | |
| 3 | [授業概要] 研究デザインに基本 (山崎 3) [到達目標] 研究デザインの種類やその違いについて、基本的内容を理解する。 | | | | | |
| 4 | [授業概要] 臨床研究の倫理 (山崎 4) [到達目標] 臨床研究に必要な倫理について理解する。 | | | | | |
| 5 | [授業概要] 研究実施に際しての倫理的配慮 (山崎 5) [到達目標] 研究を実施する際の倫理的配慮について、実際の場面を想定しながら理解する。 | | | | | |

| | | |
|-------------|--|---|
| 6 | <p>[授業概要] 動物実験の倫理：動物実験関連法規と動物実験の実施に関する基本指針、明治国際医療大学動物実験規程について解説する。</p> <p>[到達目標] 動物実験関連法規について理解し法を順守した正しい動物実験が行える。3Rの原則、動物の福祉、日本における動物実験の自主管理体制について理解する。</p> | <p>受講前に関連法規：動物の愛護及び管理に関する法律について、一読しておく。</p> <p>動物実験の意義、動物福祉について考え、動物実験を行う上で必要な倫理についてまとめる。</p> |
| 7 | <p>[授業概要] アンケート調査（山崎6）</p> <p>[到達目標] 調査研究の基本的内容について、アンケート調査を中心にして理解する。</p> | |
| 8 | <p>[授業概要] 症例報告の方法（山崎7）</p> <p>[到達目標] 症例報告の意義や実際の内容について理解する。</p> | |
| テキスト（配付資料） | 配布資料 | |
| 参 考 文 献 | 1. 医学的研究のデザイン第4版－研究の質を高める疫学的アプローチ，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2014. | |
| 評 価 方 法 | 出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢（発言など）などによって総合的に評価する（60点以上を合格とする）。 | |
| その他（アドバイス等） | 特になし | |

| | | | | | | |
|-----------|---|------|------|------------------|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 臨床鍼灸学入門 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 講義 | 授業年次 | 1 年前期 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 廣 正基、和辻直、山崎 翼、吉田行宏、福田晋平 | | | | | |
| テ ー マ | 鍼灸臨床において、治療する頻度の高い疾患、症状について、診察から鍼灸治療の基本的な方法までを理解する。また、患者心理についても学習・理解する。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 鍼灸臨床において遭遇する確率の高い①頭痛、②耳鳴・難聴、③痺れ・冷え、④頸肩腕痛・肩こり、⑤上肢痛・五十肩、⑥腰下肢痛、⑦その他不定愁訴などについて学び、ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な知識を理解する。 | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | 1. 鍼灸臨床において治療する頻度の高い疾患、症状について理解する。 2. ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な知識を理解する。 3. 患者心理を理解し、患者教育の方法までを理解する。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | [授業概要] 総合診療・理学検査について (山崎 1) [到達目標] ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な、基本的知識を理解する。 | | | | | |
| 2 | [授業概要] 頭痛 (福田 1) [到達目標] 頭痛に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。 | | | | | |
| 3 | [授業概要] 耳鳴・難聴 (福田 2) [到達目標] 耳鳴・難聴に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。 | | | | | |
| 4 | [授業概要] 手足のしびれ・冷え (福田 3) [到達目標] 痺れ・冷えに対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。 | | | | | |
| 5 | [授業概要] 頸部痛 (吉田 1) [到達目標] 頸肩腕痛・肩こりに対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。 | | | | | |

| | | |
|--------------|--|--|
| 6 | [授業概要] 肩関節痛 (吉田 2) [到達目標] 上肢痛・五十肩に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。 | |
| 7 | [授業概要] 腰下肢痛 (吉田 3) [到達目標] 腰下肢痛に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。 | |
| 8 | [授業概要] 東洋医学の基礎について (和辻 1) [到達目標] 東洋医学的診察の基礎について理解する。 | |
| テキスト (配付資料) | 配布資料 | |
| 参 考 文 献 | 1. 伊藤和憲, いちばんやさしい 痛みの治療がわかる本, 医道の日本, 2017. | |
| 評 価 方 法 | 出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢 (発言など) などによって総合的に評価する (60 点以上を合格とする)。 | |
| その他 (アドバイス等) | 特になし | |

| | | | | | | |
|-----------|--|------|------|----|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 臨床鍼灸医学 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 2 単位 | 授業形態 | 講義 | 授業年次 | 1 年通年 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 廣 正基 苗村建慈、糸井 恵、糸井啓純、樋口敏宏、山田 潤、高羽夏樹、 山崎 翼、福田文彦、井上基浩、廣 正基、木村啓作、田口玲奈、 谷口剛志、福田晋平、吉田行宏 | | | | | |
| テ ー マ | 1) 医療機関における鍼灸臨床の意義と役割 2) 現代医学の最新の医学情報 3) 最新の鍼灸臨床研究の成果の理解 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>医療機関(病院、診療所など)における鍼灸臨床の意義と役割、鍼灸師の立場、チーム医療、コメディカルスタッフとの提携及び保険適応疾患の同意などについて学習する。</p> <p>現代医学におけるトピックスを取りあげ、最新の医学情報を紹介する。また、鍼灸臨床におけるトピックスを取りあげ、最新の鍼灸臨床情報を紹介する。</p> <p>これらのことを通して、幅広い最新の知識を学習する。</p> <p>(苗村建慈/1 回) 内科領域のトピックスを取り上げ、内科の最新情報について学習する。</p> <p>(糸井啓純/1 回) 外科領域のトピックスを取り上げ、外科の最新情報について学習する。</p> <p>(糸井 恵/1 回) 整形外科領域のトピックスを取り上げ、整形外科の最新情報について学習する。</p> <p>(樋口敏宏/1 回) 脳外科領域(脳研究含む)のトピックスを取り上げ、脳外科の最新情報について学習する。</p> <p>(山田 潤/1 回) 全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした診断治療に関する最近の知見を教授する。</p> <p>(高羽夏樹/1 回) 泌尿器科領域のトピックスを取り上げ、泌尿器科の最新情報について学習する。</p> <p>(山崎 翼/1 回) 医療機関における鍼灸の実際と問題点について学習する。</p> <p>(福田文彦/1 回) 緩和医療における鍼灸臨床の成果と現状について学習する。</p> <p>(井上基浩/1 回) 整形領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。</p> <p>(田口玲奈/1 回) 産科・婦人科における鍼灸臨床の研究成果と現状に</p> | | | | | |

| | | |
|-----------|---|--|
| | <p>ついて学習する。</p> <p>(伊藤和憲/1回) 疼痛領域における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(木村啓作/1回) スポーツ傷害における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(廣正基/1回) 循環器領域における鍼灸臨床の研究成果と現状について学習する。</p> <p>(福田晋平/1回) 高齢者疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(吉田行宏/1回) コンデショニングに関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(谷口剛志/1回) 海外におけるスポーツ鍼灸事情の最新の知見について教授する。</p> | |
| 視 点 (ねらい) | <p>1) 医療機関における鍼灸医療の意義と役割について学習する。</p> <p>2) 現代医学における最新の医学情報を学習し、最先端の内容を理解する。</p> <p>3) 鍼灸臨床における最新のトピックスおよび鍼灸臨床に関する研究を取り上げ、鍼灸臨床の研究の現状と可能性について理解する。</p> | |
| 授 業 計 画 | | |
| 日程 | 概 要 | 備考 (授業時間外学習の指示等) |
| 1 | <p>[授業概要(苗村)] 急性期の呼吸器疾患の診断と治療</p> <p>[到達目標(苗村)] 急性期の呼吸器疾患の診断と治療を理解する。また、これらの疾患のうち、気管支喘息やCOPDにおいて、安定期や慢性期における鍼灸治療の適応について考察する。</p> | <p>下記の参考文献 1. または、参考文献 2. の気管支喘息、COPD、特発性間質性肺炎の項を読んでおくこと。</p> |
| 2 | <p>[授業概要(糸井啓)] 外科領域のトピックスとして、「消化器癌治療の進歩」を取り上げ、胃癌の治療を中心に外科の最新情報について学習する。</p> <p>[到達目標(糸井啓)] 癌治療に用いる「取扱い規約」、「治療ガイドライン」の在り方を胃癌の治療から学ぶ。この概念を東洋医学の分野に応用することを目指す。</p> | <p>「胃癌取扱い規約」、「胃癌治療ガイドライン (医師用)」、「胃癌治療ガイドラインの解説 (一般用)」について、その内容を調べる。旧版のガイドラインは日本胃癌学会 HP (http://www.jgca.jp/) より、ダウンロードできる。</p> |
| 3 | <p>[授業概要(糸井恵)] 関節リウマチの診断と治療に関する最新のトピックスについて説明する。</p> <p>[到達目標(糸井恵)] 関節リウマチに関して理解を深める。</p> | <p>講義内容の概要をプリントする。</p> |

| | | |
|----|--|---|
| 4 | [授業概要(樋口)]脳血管障害について、出血性疾患と虚血性(閉塞性)疾患にわけて、最新の知見を含めて解説する | 脳血管障害の中でも、特にクモ膜下出血、脳出血、脳梗塞について、病態、疫学、診断、治療、予防に関する知識を蒐集し整理を行う。論文の検索、理解などによって、最新の知見を蒐集する。 |
| | [到達目標(樋口)]脳血管障害の病態、疫学、診断、治療、予防について理解する | |
| 5 | [授業概要(山田)]全身の免疫系を基軸において、眼疾患を中心とした診断治療に関する最近の知見を教授する。 | 授業に関連した資料についての復習を行う。 |
| | [到達目標(山田)]局所における細胞から組織、そして全身の関わりを理解し、疾患予防や治療戦略について理解する。 | |
| 6 | [授業概要(高羽)]泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。 | 講義スライドで出てくる用語については、参考資料を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。 |
| | [到達目標(高羽)]泌尿器科疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる | |
| 7 | [授業概要(山崎)]医療機関における鍼灸臨床の可能性について。 | |
| | [到達目標(山崎)]医療機関における鍼灸治療の可能性について理解出来る。 | |
| 8 | [授業概要(福田文)]緩和医療に関する最新の知見について解説する。 | 緩和医療に関する最新の知見について予習する。 |
| | [到達目標(福田文)]緩和医療に関する最新の知見について理解する。 | |
| 9 | [授業概要(井上)]整形領域における鍼灸臨床の研究成果について学習する。 | |
| | [到達目標(井上)]整形領域における鍼灸臨床の研究成果について理解する。 | |
| 10 | [授業概要(田口)]産科、婦人科における鍼灸臨床の成果と現状について講義する。 | 関連する論文をあらかじめ予習する。テキストについては授業時に配布する。 |
| | [到達目標(田口)]産科、婦人科における鍼灸臨床の成果と現状について理解する。 | |
| 11 | [授業概要(伊藤)]急性痛、慢性痛における鍼灸臨床の研究成果について学習する。 | |
| | [到達目標(伊藤)]急性痛、慢性痛における鍼灸臨床の成果と現状について理解する。 | |
| 12 | [授業概要(木村)]スポーツ医学系領域の研究成果および現状について教授する。 | |
| | [到達目標(木村)]スポーツ医学系領域の研究成果および現状について理解することができる。 | |

| | | |
|-------------|---|---|
| 13 | [授業概要(廣)] 循環器領域とくに高血圧における鍼灸臨床の研究成果と現状について教授する。 | |
| | [到達目標(廣)] 高血圧における鍼灸臨床の研究成果と現状について理解することができる。 | |
| 14 | [授業概要(福田晋)] 高齢者疾患としてパーキンソン病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。 | 講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。 |
| | [授業概要(福田晋)] 高齢者疾患としてパーキンソン病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。 | |
| 15 | [授業概要(吉田)] コンデショニングに関する鍼灸治療を教授する。 | |
| | [到達目標(吉田)] スポーツ分野における傷害の予防や治療方法（鍼灸治療の役割も含む）を理解する。 | |
| 16 | [授業概要(谷口)] 海外におけるスポーツ鍼灸について教授する。 | |
| | [到達目標(谷口)] 海外におけるスポーツ鍼灸について理解する。 | |
| テキスト（配付資料） | 適宜指示する。 講義内容の概要をプリントで配布する。 | |
| 参 考 文 献 | 苗村健治担当 1. 新臨床内科学第9版：高久史麿ほか編, 医学書院, 2009 2. 内科学第9版：杉本恒明ほか編, 朝倉書店, 2007 糸井啓純担当 1. 日本胃癌学会編、「胃癌取扱い規約」第14版. 金原出版, 2010. 2. 日本胃癌学会編、「胃癌治療ガイドライン」第3版. 金原出版, 2010. | |
| 評 価 方 法 | 課題に対するレポートにより評価する。 | |
| その他（アドバイス等） | 課題に対するレポート作成に関連して、講義に出てくる専門用語、概念で分かりにくい点を、講義の間に、その場で解決する。 | |

| | | | | | | |
|------------------------|---|-----------------------------|------|------------------|------|------|
| 授 業 科 目 名 | 附属鍼灸センター実習 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 4単位 | 授業形態 | 実習 | 授業年次 | 1年通年 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 廣 正基、木村啓作、山崎 翼 | | | | | |
| テ ー マ | 鍼灸診療におけるスキルの向上 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 附属鍼灸センターにおいては、実地臨床実習を通して、診察・治療技術および評価法に関するスキルを向上させる。来院する患者を診察(東西両医学の観点から)し、治療方針を組み立て、治療を実施し、治療効果を評価する。一連の臨床の過程をより高度に実習する。 | | | | | |
| 視 点 (ね ら い) | 実地臨床実習を通して、東西両医学の視点から診察・治療技術および評価法に関するスキルを向上させる。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日 程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 別 途 指 示 | [授業概要]別途指示する。 | | | | | |
| | [到達目標]別途指示する。 | | | | | |
| テキスト (配付資料) | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | |
| 評 価 方 法 | | 実習における鍼灸診療の実際および実技試験より評価する。 | | | | |
| そ の 他 (ア ド バ イ ス 等) | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|------|------|------------------|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 附属病院実習 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 4 単位 | 授業形態 | 実習 | 授業年次 | 1 年通年 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 苗村健治、糸井啓純、糸井 恵、大薮秀昭、樋口敏宏、山田 潤、高羽夏樹、木村篤史、小野公裕、小藤和孝 | | | | | |
| テ ー マ | 附属病院各診療科の診療の実際と業務について | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 附属病院においては、開設されている診療科をローテーションし、医療スタッフの一員として参加し、医療現場における業務役割と医療従事者との連携について実習する。加えて、診療各科の特色について学習する。 | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | 附属病院で開設されている診療科の業務とその役割を担う医療従事者について理解する。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 別途指示 | [授業概要]別途指示する。 | | | | | |
| | [到達目標]別途指示する。 | | | | | |
| テキスト (配付資料) | | | | | | |
| 参 考 文 献 | | | | | | |
| 評 価 方 法 | 病院実習における実習および実技試験により評価する。 | | | | | |
| その他 (アドバイス等) | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|--|------|------|--------------------|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 臨床鍼灸研究法 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 演習 | 授業年次 | 1 年後期 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 廣 正基、福田文彦、廣 正基、井上基浩、田口玲奈、木村啓作、山崎 翼 | | | | | |
| テ ー マ | 主要疾患、主要の病態生理学と評価法について | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>鍼灸臨床で遭遇する主要疾患、あるいは主要症状をとりあげ、それらの病態生理学について詳細に学習し、病態の理解を深める。また、主要疾患、あるいは主要症状に関連する種々の評価法について学習し、鍼灸治療の効果を客観的に評価する手法を学習する。</p> <p>加えて、臨床研究の基本的事項について学習する。臨床研究には、様々な臨床研究があり、それぞれの研究方法論について学習する。特に鍼灸臨床にとって、有用な臨床研究法について学習する。</p> <p>(福田文彦/2回) うつの病態生理と評価法について学習する。 がん患者の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(井上基浩/3回) 変形性関節症の病態生理と評価法について学習する。 頰肩腕疾患の病態生理と評価法について学習する。 腰・下肢疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(伊藤和憲/2回) 急性痛の病態生理と評価法について学習する。 慢性痛の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(廣 正基/2回) 高血圧の病態生理と評価法について学習する。 高齢者疾患の病態と評価について学習する・</p> <p>(田口玲奈/2回) 産科疾患の病態生理と評価法について学習する。 婦人科疾患の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(木村啓作/1回) スポーツ障害の病態生理と評価法について学習する。</p> <p>(吉田行宏/1回) コンディショニングの評価について学習する。</p> <p>(山崎 翼/1回) 疲労の病態生理と評価法について学習する。</p> | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | 主要疾患、主要症状の病態生理学について理解するとともにそれらの疾患や症状に関する有用性の高い評価法について理解する。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | (以下の日程のうち学生が選択した8テーマを実施する) | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | <p>[授業概要(福田1)] うつ病の病態生理と評価法について講義する。</p> <p>[到達目標(福田1)] うつ病の病態生理と評価法について理解する。</p> | | | うつ病に関する病態について予習する。 | | |

| | | |
|----|---|--|
| 2 | [授業概要(福田2)]がん患者の病態と評価について講義する。 | |
| | [到達目標(福田2)]がん患者の病態と評価について理解する。 | |
| 3 | [授業概要(伊藤1)]急性痛の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(伊藤1)]急性痛の病態生理と評価法について理解する。 | |
| 4 | [授業概要(伊藤2)]慢性痛の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(伊藤2)]慢性痛の病態生理と評価法について理解する。 | |
| 5 | [授業概要(廣1)]高血圧の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(廣1)]高血圧の病態生理と評価法について理解する。 | |
| 6 | [授業概要(廣2)]高齢者疾患の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(廣2)]高齢者疾患の病態生理と評価法について理解する。 | |
| 7 | [授業概要(田口1)]産科の病態生理や治療法、さらには鍼灸治療の可能性について講義する。 | |
| | [到達目標(田口1)]産科の病態生理や治療法（鍼灸を含む）について理解する。 | |
| 8 | [授業概要(田口2)]婦人科の病態生理や治療法、さらには鍼灸治療の可能性について講義する。 | |
| | [到達目標(田口2)]婦人科の病態生理や治療法（鍼灸を含む）について理解する。 | |
| 9 | [授業概要(井上1)]膝関節疾患の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(井上1)]膝関節疾患の病態生理と評価法について理解する。 | |
| 10 | [授業概要(井上2)]腰・下肢疾患の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(井上2)]腰・下肢疾患の病態生理と評価法について理解する。 | |
| 11 | [授業概要(井上3)]頸肩腕疾患の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(井上3)]頸肩腕疾患に対する鍼灸治療を行う上で必要な病態生理と評価法について理解する。 | |
| 12 | [授業概要(木村)]スポーツ障害の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(木村)]スポーツ障害の病態生理と評価法について理解する。 | |

| | | |
|-------------|-------------------------------------|--|
| 13 | [授業概要(吉田)]コンデショニングに対する評価方法について講義する。 | |
| | [到達目標(吉田)]コンデショニングに対する評価方法について理解する。 | |
| 14 | [授業概要(山崎)] 疲労の病態生理と評価法について講義する。 | |
| | [到達目標(山崎)] 疲労の病態生理と評価法について理解する。 | |
| テキスト（配付資料） | 講義時に配布する。 | |
| 参 考 文 献 | 1) 高血圧治療ガイドライン 2009, 日本高血圧学会, 2009 | |
| 評 価 方 法 | 課題に対するレポート及びプレゼンテーションより評価する。 | |
| その他（アドバイス等） | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|-----|-----|------------------------|-----|-----|
| 授 業 科 目 名 | 統合医療学 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 単位数 | 単位数 | 単位数 | 単位数 | 単位数 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 伊藤和憲、斉藤宗則、山崎翼 | | | | | |
| テ ー マ | 統合医療の概念とそれに必要な知識 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。</p> <p>①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。</p> | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | <p>1. 統合医療の概念について理解すること</p> <p>2. 統合医療を広めるために必要な知識</p> <p>3. 統合医療の特徴および長所と短所を理解すること</p> <p>4. 統合医療の現在と未来を理解する</p> | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | <p>[授業概要] 統合医療総論:1 (伊藤 1)</p> <p>[到達目標] 統合医療とは何かについて、社会的背景も踏まえて理解する。</p> | | | グループディスカッションを行う | | |
| 2 | <p>[授業概要] 東洋医学の歴史と概念について議論を深める。(斉藤 1)</p> <p>[到達目標] 中国医学の歴史を概説できる。</p> | | | 配付資料を読解し、図書館で関連資料を調べる。 | | |
| 3 | <p>[授業概要] 東洋医学の歴史と概念について議論を深める。(斉藤 2)</p> <p>[到達目標] 日本鍼灸の歴史を概説できる。</p> | | | 配付資料を読解し、図書館で関連資料を調べる。 | | |
| 4 | <p>[授業概要] 東洋医学の基礎技術について理解を深める。(斉藤 3)</p> <p>[到達目標] 基礎的な四診法を行うことができる。</p> | | | | | |
| 5 | <p>[授業概要] 医師と連携するために必要な西洋医学的知識について講義する。(山崎 1)</p> <p>[到達目標] 医師と連携するために必要な西洋医学的知識について理解を深める。</p> | | | | | |

| | | |
|-------------|--|-----------------------------------|
| 6 | <p>[授業概要] 医師と連携するために必要な西洋医学的検査について講義する。(山崎 2)</p> <p>[到達目標] 医師と連携するために必要な西洋医学的検査について理解を深める。</p> | |
| 7 | <p>[授業概要] 世界の統合医療について海外文献を調査し発表する (山崎 3)</p> <p>[到達目標] 世界の統合医療について文献から概要を学ぶ。</p> | 各自でテーマを決めて発表する 発表後、ディスカッションを行う |
| 8 | <p>授業概要] まとめ (伊藤 2)</p> <p>[到達目標]・全体の総括を行う。統合医療についての意見交換を行う。</p> | 各自でテーマを決めて発表する グループディスカッションを行う |
| テキスト(配付資料) | 配布資料 | |
| 参 考 文 献 | <p>1. 今西二郎：医療従事者のための補完代替医療第2版, 金芳堂, 2009.</p> <p>2. 伊藤和憲：慢性痛は自分で治せる (KK ベストセラーズ)</p> <p>3. 伊藤和憲：いちばんやさしい痛み治療 (医道の日本)</p> | |
| 評 価 方 法 | 出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢(発言など)などによって総合的に評価する(60点以上を合格とする)。 | |
| その他(アドバイス等) | 特になし | |

| | | | | | | |
|------------------------|--|------|------|------------------|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 学際鍼灸医学 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 講義 | 授業年次 | 1 年前期 |
| 授 業 担 当 者 (◎は科目責任者) | ◎梅田雅宏、伊藤和憲、山崎 翼 | | | | | |
| テ ー マ | 医療と情報、医療と社会、健康の病気などの各分野における中心的内容を 取り上げ、学際的な観点から鍼灸医学をとらえなおす。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>①医療と情報、②医療と社会、③予防と未病、④健康と病気の各分野に おける中心的内容をとり上げ、それらと鍼灸医学との関連性について教 授する。</p> <p>(梅田雅宏/2 回) 医療情報に関する最新の知見として、医療情報とは 何か、医療情報の意義と価値などについて教授する。</p> <p>(山崎 翼/3 回) 健康論の変遷などについて、健康と病気との関係性を 通して健康とは何か、健康と伝統医学との関係を教授する。</p> <p>(伊藤和憲/3 回) 今後の医療を踏まえた予防医学・未病医学の意義や 広め方、研究申請の方法について教授する。</p> | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | <p>1. 医療情報とは何か、その意義と価値について理解すること。</p> <p>2. 医療社会学という学問について理解すること。</p> <p>3. 養生の意義と未病医学の意義と視点について理解すること</p> <p>4. 健康と病気及び健康論について理解すること</p> <p>5. 鍼灸医学における学際的な視点の必要性について考えること</p> | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | <p>[授業概要(梅田1)] 医療に関連する情報の 創出とそのデータの扱い方、利用の仕方を考 え、現在の医療データ管理の現状を学習す る。また、IT化の進化としてネットワークシ ステムについて解説し、その医療への応用を 解説し、医療とコンピュータの関わりについ て理解を深める。</p> <p>[到達目標(梅田 1)] 医療行為に伴う情報の 種類や内容を理解し、医療情報の収集、整理、 利用法を考え、ネットワークシステムを生か した医療情報システムが運用されようとし ていることを理解する。</p> | | | | | |

| | | |
|---|---|----------|
| 2 | [授業概要(梅田2)] 病院における医療情報の種類と流れを把握し、現在の病院システムを解説する。さらに検査データについての種類とその種別について解説する。また電子カルテなどにおけるメリットとデメリットについて解説する。 | |
| | [到達目標(梅田 2)] 医療行為に伴う情報の性質について理解し、その扱い方やコンピュータを利用した情報の流れを理解する。 | |
| 3 | [授業概要(山崎1)] 「健康」という用語の誕生と「健康」という概念について学習するとともに東洋医学の健康観について学習する。とくに明治期に健康に対する概念の変化について理解する。 | 参考文献 4、5 |
| | [到達目標(山崎 1)] 「健康」という用語の誕生とその概念の変化について理解する。 | |
| 4 | [授業概要(山崎2)] 「健康」に対する捉え方と多様な健康観について学習し、健康という概念の多義性と各々の健康観の特徴を理解する。そのことを通して、健康についての自己の視点を涵養する。 | 参考文献 4、5 |
| | [授業概要(山崎2)] 「健康」という用語の誕生と「健康」という概念について学習するとともに東洋医学の健康観について学習する。とくに明治期に健康に対する概念の変化について理解する。 | |
| 5 | [授業概要(山崎3)] 貝原益軒とは、養生訓の重要な考え方について概説する。 | |
| | [到達目標(山崎 3)] 養生訓の総論について理解する。 | |
| 6 | [授業概要(伊藤1)] 現在の医療問題について学習する。 | |
| | [到達目標(伊藤 1)] 現在の医療問題について理解する。 | |
| 7 | [授業概要(伊藤2)] 現在の医療問題について学習する。 | |
| | [到達目標(伊藤 2)] 現在の医療問題について理解する。 | |
| 8 | [授業概要(伊藤3)] 研究費申請のために必要な知識について学習する。 | |
| | [到達目標(伊藤 3)] 研究費申請のために必要な知識について理解する。 | |

| | |
|-------------|--|
| テキスト（配付資料） | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報 医学・医療編 新版, 日本医療情報学会医療情報技師育成部会, 2009. 2. 医療社会学を学ぶ人のために, 進藤雄三, 黒田浩一郎, 世界思想社, 1999. 3. 養生・未病に関する配布資料 4. 医療原論 —いのち・自然治癒力— 医歯薬出版社, 東京, 2011. |
| 参 考 文 献 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報学入門, 樺澤 一之, 豊田 修一, 共立出版, 2006. 2. 医療社会学を学ぶ人ために, 進藤雄三, 黒田浩一郎編, 世界思想社, 2001. 3. わかりやすい医療社会学, 野村拓, 藤崎和彦, 看護の科学者, 1997. 4. 「健康」の日本史, 北澤一利, 平凡社新書 5. 健康観の転換-新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子編, 東京大出版会 |
| 評 価 方 法 | 課題に対するレポートおよびプレゼンテーションにより評価する。 |
| その他（アドバイス等） | 随時、適当な文献を紹介する。 |

| | | | | | | |
|-----------|---|------|------|------------------|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 教育学概論 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 講義 | 授業年次 | 1 年後期 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 廣 正基、河井正隆、山崎 翼 | | | | | |
| テ ー マ | 教育学の理解とそれに必要な知識の学修 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 教育学について、理療教育学を中心として学習し、その内容について理解する。特に、①理療教育の序論、②教育方法、③教材の作成と評価、④教育実習、⑤教育心理、⑥発達、⑦特別支援教育、⑧児童心理などについて理解を深め、教育学の基礎的内容について理解する。 | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | 1. 教育学の基礎的内容について理解する 2. 理療教育について必要な知識 3. 教育方法や評価について理解すること 4. 教育心理や児童心理などについて考えること | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | [授業概要] 理療教育学 序説 (河井、山崎 1) [到達目標] 理療科教育に関する基礎的内容について理解する。 | | | | | |
| 2 | [授業概要] 教育方法と技術のとらえ方(河井、山崎 2) [到達目標] 教育方法とその技術について、基礎的な内容を理解する。 | | | | | |
| 3 | [授業概要] 教材の作成と教育評価 (河井、山崎 3) [到達目標] 教材の作成方法とその教育評価について、実際の方法に基づいて学習し、理解する。 | | | | | |
| 4 | [授業概要] 教育実習 (概論) (河井、山崎 4) [到達目標] 教育実習の概論について学習する。 | | | | | |
| 5 | [授業概要] 教育心理学とこころの構造(河井、山崎 5) [到達目標] 教育心理学とこころの構造について基礎的内容を理解する。 | | | | | |

| | | |
|--------------|---|--|
| 6 | [授業概要] さまざまな発達 (河井、山崎 6) [到達目標] 発達に関する基礎的内容について理解する。 | |
| 7 | [授業概要] 特別支援教育 (河井、山崎 7) [到達目標] 特別支援教育について基礎的な内容を学習し、理解する。 | |
| 8 | [授業概要] 児童期・思春期・青年期の問題 (河井、山崎 8) [到達目標] 不登校やストレス、いじめなどを含めた諸問題を含めて、各時期の問題について学習し、理解する。 | |
| テキスト (配付資料) | 配布資料及び 吉川恵士 (監修) : 理療教育学 序説, ジアース教育新社, 2015. | |
| 参 考 文 献 | 特になし | |
| 評 価 方 法 | 出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢 (発言など) などによって総合的に評価する (60 点以上を合格とする)。 | |
| その他 (アドバイス等) | 特になし | |

| | | | | | | |
|-----------------------|--|------|------|------------------|------|-----|
| 授 業 科 目 名 | 予防医学 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 印刷教材 | 授業年次 | 1 年 |
| 授 業 担 当 者 | ◎ 伊藤和憲 | | | | | |
| テ ー マ | 統合医療の基本となる養生について、その原理と基礎となる理論を学習することで、統合医療の本質を理解する | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 養生の基礎となる①身体を知る、②身体を緩める、③身体を鍛える、④身体を整える、⑤身体を温める、⑥身体と食習慣、⑦身体と生活習慣について学ぶことで、エビデンスに基づき現代版養生訓を理解する。 | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | 1. 養生について理解する。 2. 養生の基本理論と方法論を理解する。 3. 養生を活用できるための方法を理解する。 | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | [授業概要] 養生とは？ [到達目標] 養生とは何かについて、その霧論を学習する。 | | | | | |
| 2 | [授業概要] 養生教育1：身体を知る [到達目標] 養生の基礎である身体のサインについて理解する | | | | | |
| 3 | [授業概要] 養生教育2：身体をゆるめる [到達目標] 身体をゆるめることについて、その方法論を理解する | | | | | |
| 4 | [授業概要] 養生教育3：身体を温める [到達目標] 身体を温めることについて、その方法論を理解する | | | | | |
| 5 | [授業概要] 養生教育4：身体を整える1 [到達目標] 心や自律神経と身体の関係について、その方法論を理解する | | | | | |
| 6 | [授業概要] 養生教育5：身体と整える2 [到達目標] 身体と食事や思考について、その方法論を理解する | | | | | |
| 7 | [授業概要] 養生教育6：身体を鍛える [到達目標] 身体を鍛えることについて、その方法論を理解する | | | | | |
| 8 | [授業概要] 養生教育7：今後の予防医療 [到達目標] 未来の予防医療についてありかたを理解する。 | | | | | |
| テキスト (配布資料) | 配布テキスト | | | | | |
| 参 考 図 書 (購入の必要はない) | 1. 伊藤和憲：慢性痛は自分で治せる (KK ベストセラーズ) 2. 伊藤和憲：いちばんやさしい痛み治療 (医道の日本) | | | | | |

| | |
|-------------|-------------------------|
| 評 価 方 法 | レポート提出および発表で、総合的に評価を行う。 |
| その他（アドバイス等） | 特になし |

| | | | | | | |
|------------------------|---|------|------|------------------|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 伝統鍼灸学 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 2 単位 | 授業形態 | 演習 | 授業年次 | 1 年前期 |
| 授 業 担 当 者 (◎は科目責任者) | ◎ 和辻 直、斉藤宗則 | | | | | |
| テ ー マ | 日本の伝統鍼灸の診察法、治療法について 臓腑および経絡の診断・治療 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | <p>日本の鍼灸臨床の特徴は、西洋医学と東洋医学を合わせた形で診療することが多い。この科目では、東洋医学の基本を強化し、鍼灸臨床における診察から治療までの過程の理解を深め、実践するための基本技能を強化する。</p> <p>(和辻 直/4 回) 臓腑と経絡の機能と病証、四診の所見と臨床的意義を担当する。</p> <p>(斉藤宗則/3 回) 病因と病機、治則と選穴、補瀉手技を担当する。</p> <p>日本の伝統鍼灸の診療体系には、主に経絡治療と中医学があり、いずれも四診法を行って、病証を判断する。特に日本の伝統鍼灸の特徴は、切診によって得られる体表所見を重視する点、軽微な刺激を与えて治療する点、経絡経穴を意識して施術する点など挙げられる。これらの特徴を理解し、臓腑病・経絡病・経筋病・外感病の病態を判断する診療体系について理解を深める。同時に臨床に関係した東洋医学の古典文献の基礎知識から症例検討まで検討する。</p> <p>(和辻 直/7 回) 外感病の診断と治療法を担当する。</p> <p>(斉藤宗則/8 回) 臓腑病の診断と治療法を担当する。</p> | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | <p>日本の伝統鍼灸の診察法、治療法を理解するとともに、その伝統的鍼灸の特色を把握する。また、日本鍼灸と中医鍼灸の同と異について理解する。</p> <p>臓腑・経絡学説にもとづく新しい診療システムについて理解するとともに臓腑・経絡の診断法と治療法について理解する。</p> | | | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考 (授業時間外学習の指示等) | | |
| 1 | [授業概要(和辻1)] 臓腑の機能と病証 | | | 臓腑の機能を復習する | | |
| | [到達目標(和辻 1)]臓腑の機能と病証を理解する | | | | | |

| | | |
|----|--|---|
| 2 | [授業概要(和辻2)] 経脈の機能と病証 | 経脈の流注を復習する |
| | [到達目標(和辻2)] 経脈の機能と病証を理解する | |
| 3 | [授業概要(和辻3)] 四診の所見と臨床的意義1 | 四診法を復習する |
| | [到達目標(和辻3)] 四診の所見と臨床的意義1を理解する | |
| 4 | [授業概要(和辻4)] 四診の所見と臨床的意義2 | 四診の所見と臨床的意義を復習する。 |
| | [到達目標(和辻4)] 四診の所見と臨床的意義2を理解する | |
| 5 | [授業概要(斉藤1)] 病因と病機について | 病因について復習する。 |
| | [到達目標(斉藤1)] 病因と病機を理解できる | |
| 6 | [授業概要(斉藤2)] 治則と選穴について | 主な治則と選穴について整理して、まとめる。 |
| | [到達目標(斉藤2)] 治則と選穴について理解する | |
| 7 | [授業概要(斉藤3)] 虚実寒熱と補瀉法 | 補瀉手技を自ら行い、確認する。 |
| | [到達目標(斉藤3)] 補瀉手技を説明できる。 | |
| 8 | [授業概要(和辻5)] 概要と日本の伝統鍼灸診療体系の特徴。 | 経絡治療、中医鍼灸、現代的病態把握の底流に流れるコアは何かを考える。 |
| | [到達目標(和辻5)] 4つの診断概念について特徴および要点を理解する。 | |
| 9 | [授業概要(和辻6)] 臓腑・経絡を理解する。 | 東洋医学の臓象、経絡学説を理解する。 |
| | [到達目標(和辻6)] 五臓六腑の生理病理、固有症状、経絡の流注と病的状態における病証について整理する。 | |
| 10 | [授業概要(和辻7)] 経筋の特徴について理解する。 | 経筋の特徴、経筋と筋との関係を理解する。 |
| | [到達目標(和辻7)] 経筋の走行と病証について理解を深める。 | |
| 11 | [授業概要(和辻8)] 症例カンファレンス1 | 症例より病証の把握を理解する。 |
| | [到達目標(和辻8)] 症例を提示させ、その病証を理解する。和辻、斉藤 | |
| 12 | [授業概要(斉藤4)] 臓腑病と診療の進め方 | あらかじめ、『東洋医学概論』『鍼灸学基礎編』の臓象、病因、病機を復習しておく。 |
| | [到達目標(斉藤4)] 臓腑病の概念、診療ポイントが理解できる。 | |
| 13 | [授業概要(斉藤5)] 臓腑弁証1 | 指定された証について概要、診断ポイント、治療などを調べ、発表の準備をしておく。 |
| | [到達目標(斉藤5)] 肝、心、脾の主要証のポイントを把握する。 | |

| | | |
|-------------------|---|--|
| 14 | [授業概要(斉藤6)] 臓腑弁証2 | 指定された証について概要、診断ポイント、治療などを調べ、発表の準備をしておく。 |
| | [到達目標(斉藤6)] 肺、腎の主要証のポイントを把握する。 | |
| 15 | [授業概要(斉藤7)] 症例検討 | 文献の症例より病証の把握手順やポイントを理解する。 |
| | [到達目標(斉藤7)] 症例に対する基本的な弁証の進め方、その治療法を理解する。 | |
| 16 | [授業概要(斉藤8)] 症例カンファレンス2 | 自分の経験した症例について、主訴、所見、病因、病機、診断、治療を発表する。 |
| | [到達目標(斉藤8)] 症例を提示させ、その病証を理解する。斉藤、和辻 | |
| 17 | [授業概要(和辻9)] 外感病 | 六淫の特徴や感冒の弁証を理解ができるよう復習する。 |
| | [到達目標(和辻9)] 六淫・六経弁証の特徴を説明できる。 | |
| 18 | [授業概要(和辻10)] 経絡治療 | 経絡治療の特徴を理解し、その要点を説明することができる。 |
| | [到達目標(和辻10)] 経絡治療の概要を理解でき、診療や基本の治療配穴ができる。 | |
| 19 | [授業概要(和辻11)] 経絡を応用した診察 | 変動経絡検索法の基本を理解するために関連図書を読む。 |
| | [到達目標(和辻11)] 経絡を応用した診察(変動経絡検索法)の基本を説明できる。 | |
| 20 | [授業概要(斉藤9)] 臨床に関連した東洋医学古典1 | 元となる古典の概要や臨床との関連を復習する。 |
| | [到達目標(斉藤9)] | |
| 21 | [授業概要(斉藤10)] 臨床に関連した東洋医学古典2 | 元となる古典の概要や臨床との関連を復習する。 |
| | [到達目標(斉藤10)] | |
| 22 | [授業概要(斉藤11)] 症例カンファレンス3 | 症例より病証の把握を理解する。 |
| | [到達目標(斉藤11)] 症例を提示させ、その病証を理解する。斉藤、和辻 | |
| テキスト(配付資料) | | 適宜指示する。 |
| 参 考 文 献 | | 1) HARI なび 2) 中医弁証学, 東洋学術出版社 3) 中医針灸学の治法と処方, 東洋学術出版社 |
| 評 価 方 法 | | 課題に対するレポートおよびプレゼンテーションより評価する。 |
| そ の 他 (アドバイス等) | | |

■ 専門科目

| | | | | | | |
|-------------|--|------|------|----|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 臨床鍼灸学研究法 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 講義 | 授業年次 | 1 年通年 |
| 授 業 担 当 者 | 伊藤和憲 | | | | | |
| テ ー マ | 研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 臨床鍼灸学分野における研究課題(安全性を含む)、特にヒトを対象とした研究法について教授する。 | | | | | |
| 視 点 (ね ら い) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える | | | | | |
| テキスト(配付資料) | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 参 考 文 献 | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | 課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。 | | | | | |
| その他(アドバイス等) | | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------|--|------|------|----|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 健康予防鍼灸学研究法 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 2 単位 | 授業形態 | 講義 | 授業年次 | 1 年通年 |
| 授 業 担 当 者 | | | | | | |
| テ ー マ | 研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 健康予防鍼灸学分野における研究課題、特にヒトを対象とした研究法について教授する。 | | | | | |
| 視 点 (ね ら い) | 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える | | | | | |
| テキスト(配付資料) | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 参 考 文 献 | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | 課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。 | | | | | |
| その他(アドバイス等) | | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------------|--|------|------|----|------|--------|
| 授 業 科 目 名 | 臨床鍼灸学実習 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 6 単位 | 授業形態 | 実習 | 授業年次 | 1・2年通年 |
| 授 業 担 当 者 | 伊藤和憲 | | | | | |
| テ ー マ | 修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学术论文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 臨床鍼灸学分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。 | | | | | |
| 視 点 (ね ら い) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること | | | | | |
| テ キ ス ト (配 付 資 料) | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 参 考 文 献 | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | 課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。 | | | | | |
| その他 (ア ド バ イ ス 等) | | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------------|--|------|------|----|------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 健康予防鍼灸学実習 | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 4 単位 | 授業形態 | 実習 | 授業年次 | 1・2 年通年 |
| 授 業 担 当 者 | | | | | | |
| テ ー マ | 修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 健康予防鍼灸学分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。 | | | | | |
| 視 点 (ね ら い) | 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること | | | | | |
| テ キ ス ト (配 付 資 料) | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 参 考 文 献 | 各自の研究テーマより指示する。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | 課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。 | | | | | |
| その他 (ア ド バ イ ス 等) | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|------|------|----|------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 特別研究 I | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 1 単位 | 授業形態 | 演習 | 授業年次 | 1・2 年 |
| 授 業 担 当 者 | 伊藤和憲 | | | | | |
| テ ー マ | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。 | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| テ キ ス ト | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 参 考 文 献 | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | 論文とプレゼンテーションにより評価する。 | | | | | |
| その他 (アドバイス等) | | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------|---|-----|------|----|------|------|
| 授 業 科 目 名 | 特別研究Ⅱ | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 5単位 | 授業形態 | 演習 | 授業年次 | 1・2年 |
| 授 業 担 当 者 | 和辻 直、角谷英治、伊藤和憲、廣 正基 | | | | | |
| テ ー マ | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。 | | | | | |
| 視 点 （ ね ら い ） | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| テ キ ス ト | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 参 考 文 献 | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | 論文とプレゼンテーションにより評価する。 | | | | | |
| その他（アドバイス等） | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|-----|------|-----------------|------|------|
| 授 業 科 目 名 | 特別研究Ⅲ | | | | | |
| 単 位 数 等 | 単位数 | 2単位 | 授業形態 | 演習 | 授業年次 | 1・2年 |
| 授 業 担 当 者 | 和辻 直、角谷英治、伊藤和憲、廣 正基 | | | | | |
| テ ー マ | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | 「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。 | | | | | |
| 視 点 (ねらい) | 各研究指導教員の指示による。 | | | | | |
| 日程 | 概 要 | | | 備考（授業時間外学習の指示等） | | |
| 1 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 2 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 3 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 4 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 5 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 6 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 7 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 8 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 9 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 10 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 11 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 12 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 13 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 14 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 15 | [授業概要]中間発表 | | | | | |
| 16 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 17 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 18 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 19 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 20 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 21 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 22 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 23 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 24 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 25 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 26 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 27 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 28 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 29 | [授業概要]研究指導 | | | | | |
| 30 | [授業概要]中間発表 | | | | | |

| | |
|-------------|----------------------|
| テ キ ス ト | 各研究指導教員の指示による。 |
| 参 考 文 献 | 各研究指導教員の指示による。 |
| 評 価 方 法 | 論文とプレゼンテーションにより評価する。 |
| その他（アドバイス等） | |